

## 命の大切さ

(2)年(1)組(5)番  
氏名 尾崎可渚

僕はあの台風で、家族や、近所の人の大切さがとてもよくわかりました。台風で家の一階が全壊で、かた時も親せきの家に泊めてもらいなから学校にもきたし、周りの人からいろいろな物をもらったりしました。救急箱など、もたせられました。家なども壊れたりしている時、わたなべ先生が家に行き、なまがんばれといってくれました。そのとき、お父さんが本当につれしくて、今でも心に残っています。それに、お父さんがとてもたくましく見えました。家直しを何か月もかかりながら一人でやりました。なので、僕の家の家直しは一回もかけずに済みました。台風で水がすぐ目の前にきていた夜も不安で、一歩もできない時、お母さんがひたすら僕を励ましてくれたのもおぼえています。おラニエ、アの人に家のいろいろな所をえうじしてもらったりして、本当にたすかりました。あの台風の時、本当に怖くて、もう死ぬかと思いましたが、でも今僕がこうやって生活できているのも、周りの人からの支えがあったからだとあの台風がきて、わかりました。